

4.2 興居島

(1) 集落の構造と特徴

1) 集落

興居島には、3つの町と9つの集落が形成されている。集落はいずれも谷地形の海岸沿いに立地し、背後の傾斜地に農地が形成されている。興居島小学校、興居島中学校は、島中央部の元々農地として利用されていた場所に立地している。

2) 農地

低地が少なく、畑地として利用される土地はごくわずかである。そのため、傾斜地が果樹の栽培用地として活用されてきた。溜池も32箇所つくられており、主に農業に活用されている。

(2) 産業の特徴

1) 農業(多角的果樹栽培から単一化へ)

興居島では、1835(寛永4)年に由良でももが、1900(明治33)年に泊でびわが栽培され始めたといわれる。その後、りんご・なし・みかなどの多角的果樹栽培が最盛期を迎えた。他島がしょうがやたまねぎ栽培中心の時期を経て柑橘栽培に流れていったのに対し、興居島が早くから果樹栽培に取り組めたのは、他島と比較して松山市場から航行距離2kmの近距離にあり、自家所有船や渡海船を利用して果実市場性に対応できたためであるといわれている。

1950(昭和25)年頃からは、多くの農地が温州みかんの栽培に移り変わり、作物は次第に単一化していった。

現在、興居島の農協では、共同選果とともに「個選」(個人による選果・出荷)が認められている。この利点は、三津市場へ持船や渡海船で自由に持って行けること、相場変動をみることができること、現金化が早いこと等があげられる。

3) 海との関わり

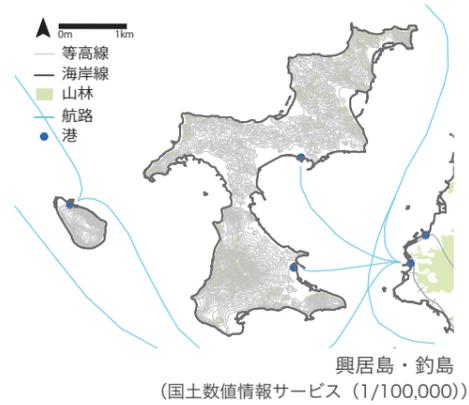
門田集落を除く8つの集落には港が整備されている。島の西側には鷺ヶ巣海水浴場、南側には相子ヶ浜海水浴場がある。相子ヶ浜海水浴場では、海水浴、マリンスポーツが楽しめる。

4) 寺社

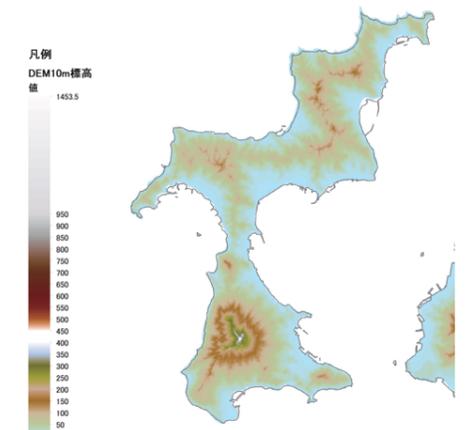
興居島では約250年の歴史を持つ島遍路で札所を参拝する島四国八十八箇所巡りが続いている。四国八十八ヶ所を巡るのと同じご利益があるとされ、4月には多くの来訪者で賑わう。島に人のお接待も名物の一つで、小さな札所が島の人たちの手で守られている。

2) 漁業

昭和40年以降に網ひび養殖が県の改良普及員の指導でかなり普及したが、ほどなくして廃業となった。同時期には真珠養殖が進出しており真珠養殖やごかい養殖は今でも行われている。



出典: 「平成27年国勢調査」「日本の島へ行くHP」



興居島・釣島の地形図(国土地理院 DEM10m (1/83,000))



1948年空中写真(1/83,000)(出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス)



1984年空中写真(1/83,000)(出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス)



興居島空中写真2019年(1/20,000)(国土地理院2019年空中写真を合成)

由良町

(3) 由良

1) 集落の構造

由良集落は興居島中央東側の湾に沿って立地する。由良港は、高浜港からフェリーで約 10 分と近い。泊に並んで興居島の中心的な集落であり、公民館や駐在所、農業用品販売店などの機能が集積している。住宅は旧中島町で多く見られる長屋門のような建物もいくつか見られる。集落背後には泊町の伊予小富士や門田町の犬吠山のような標高の高い山はなく、終戦直後の空中写真をみると、標高の低い山の多くは農地として開墾されていたことがわかる。現在その多くは放棄され森林化している。

由良集落
(2020.8 撮影)

2) 集落西部に形成された農地

由良集落の西部には比較的広い範囲に低地が広がっており、現在はビニールハウス等の多く設置される農地として活用されている。1948 年の航空写真では既に道路が整備されているが、その直線的な構造と一部干拓したような痕跡がみられる。

港前のコーヒーショップ
(2020.8 撮影)神社付近に残る長屋門
(2020.8 撮影)

3) 移住体験施設

松山市は島嶼住民の交流と定住人口の増加による地域の活性化を目的に、興居島の良立地と自然環境を生かした移住体験施設を 2017 年に開設した。農村の生活に不慣れな入居者でも、家庭菜園を通して農業を体験し、管理組合による住民との交流により、徐々に島に溶け込む体制が整えられている。

移住体験施設
(2020.8 撮影)集落西部の農地
(2020.8 撮影)

(4) 北浦

1) 集落全体の構造

北浦集落は、由良集落の背後の山を超えた反対側の湾に位置する。集落は海岸沿いに形成され、港を有する。西からの風が強く、海岸の建物はコンクリートづくりの倉庫や住居が多く並んでいる。農地も比較的多いが、現在はビニールハウスが目立つ。

北浦集落の全景
(2020.8 撮影)集落裏手の農地から見る北浦集落
(2020.8 撮影)

(5) 鷺ヶ巣

1) 集落全体の構造

鷺ヶ巣集落は、由良集落の西に位置する。長い湾状の海岸に沿って細く集落が形成され、集落南部に隣接して海水浴場が立地する。背後のなだらかな斜面は農地として活用され、現在ではビニールハウスが多くみられる。

鷺ヶ巣集落と伊予小富士
(2020.8 撮影)

2) 釣りや海水浴場

鷺ヶ巣海水浴場は、島内外からは鷺ヶ巣の広い海岸で釣りや海水浴を楽しむ人々が訪れる。由良港からも近く、現在では海の家が 2 種類開設されている。

鷺ヶ巣海水浴場
(2020.8 撮影)

門田町

(6) 門田

1) 集落全体の構造

門田集落は、由良集落の東、弁財天神社のある崎を挟んで隣接する集落である。集落背後の斜面には農地が形成されている。4 本ほどの農道が海岸線に垂直に敷かれているのが特徴的である。

門田集落
(2020.8 撮影)

2) 集落北部の農地

門田集落の北部の谷戸には、住宅のない農地だけの土地がある。古くは畜産を行っていたといわれており、少し山を登ったところに、岩神社が立地している。現在、他の農地と同様、ビニールハウスが多く設置されている。

集落北部の農地
(2020.8 撮影)岩神社
(2020.8 撮影)

(7) 馬磯

1) 集落全体の構造

馬磯集落は興居島の北端に位置する。木造の建築物は少なく、比較的新しい建築物が見られる。集落北東には、1955 (昭和 30) 年に漁港が整備されている。

馬磯漁港
(2020.8 撮影)

2) 農業と漁業

馬磯集落背後の山の裏側では、急傾斜で入り組んだ斜面地一体に果樹栽培が行われている。海岸沿いには防風林が形成されており、またコンクリートブロックによって形成された防風を目的としたと思われる施設も設置されている。こうした構造物はこの馬磯集落背後の山を超えた裏側の斜面地に特に多く見られる。

漁業も行われ、たい・はも・あなごなどを中心とする漁が行われていた。

3) 琴引鼻

興居島北端、門田町に位置する岬。車がたまたま通るが人通りはほとんどない。透き通る海と浜を眺めることができる。

傾斜農地に整備された防風林と防風壁
(2020.8 撮影)琴引鼻の景色
(2020.8 撮影)

泊町

(8) 泊

1) 集落の構造

泊集落は、興居島の南東部、伊予小富士の東側の麓、約 800m の湾に沿って形成された集落である。泊港は高浜港から真西 2km の位置にあり、松山本土からフェリーで約 10 分と最も近い港である。集落背後の傾斜地には、柑橘類の農地が形成されている。

泊集落には、現在古い木造建築が多く残されている。中には特に立派な門構えで敷地のかなり広い屋敷も見られる。一方、松山にも多く残されている長屋門形式の家屋は比較的少ない印象である。

2) 農地

低地は少なく、すぐ背後に聳える伊予小富士の山裾の斜面地に溜池などを設けながら農地が形成されている。そのため稲作等の育成は難しく、玉ねぎや果樹栽培など、斜面を生かした農業が歴史的に行われてきている。

3) 小学校の跡地と活用

松山市立泊小学校は、2009（平成 21）年に由良小学校と統合され廃校となっていたが、2013（平成 25）年にカフェやイベント交流等を行う複合施設としてリノベーションされ、「しまのテーブルごごしま」がオープンした。運営は民間によって行われ、島民や来訪者に利用されている。



集落背後の伊予小富士 (2020.8 撮影)



泊集落 (2020.8 撮影)



泊集落と背後の溜池・農地 (2020.8 撮影)



立派な門構えの屋敷 (2020.8 撮影)



「しまのテーブルごごしま」
として活用される旧泊小学校
(2020.8 撮影)



「しまのテーブルごごしま」キッチンカー @ 泊港
(2020.8 撮影)

【泊周辺の景勝地】

相子ヶ浜海水浴場

泊港から車で 5 分ほどの場所にある海水浴場。海の家が 2 件営業しており、利用客に対して港 - 浜間の送迎を行っている。浜からは松山市市街地方面が見える。



相子ヶ浜海水浴場
(2020.8 撮影)

恋人峠

相子ヶ浜からすぐの、興居島を代表する展望スポットである。松山市街を一望することができ、三津浜の花火大会はここから綺麗に見えるという。



恋人峠から松山市方面を望む
(2020.8 撮影)

夕日ヶ峠

伊予小富士の北面中腹に位置する峠で、西面を向いているため夕日が眺められるスポットとして知られている。また、釣島の特徴的な形が綺麗にみえる場所でもある。



夕日が峠からみる釣島
(2020.8 撮影)

(9) 御手洗

1) 集落の構造

御手洗集落は、泊町の南端に位置している。複雑な形の海岸と険しい伊予小富士の山裾に形成された、比較的面積の小さな集落である。農道は伊予小富士の斜面に沿って整備され、標高 100m の位置から海岸にかけて一面で果樹園の栽培が行われている。海岸には訓練中に悲惨な事故に見舞われ沈没した、潜水艦と船員の慰霊碑が建てられている。

(10) 船越

1) 集落の構造

特徴的な地形をした興居島の、中央部のくびれに船越集落は位置している。(写真) 周囲とは崎や微高地に阻まれ、小さな集落構造をなしているが、大きな山はなく、農地は低く傾斜のなだらかな位置に形成されている。大きな特徴は、興居島の東海岸と西海岸を 300m ほどでつなぐ地形となっていることであり、この地形の恩恵により島民の移動や観光が短距離で快適に行われる通路となっている。

2) 松山市立興居島小中学校

船越集落自体は小さいものの、立地の良さから、2009 年に由良と泊の小・中学校が統合され、松山市立興居島小学校、興居島中学校が開校した。2020 年に新たなスクールバスがお披露目され、島全域から約 50 人の児童、生徒が通学している。

3) 神社と祭り

学校付近の平地には、興居島の氏神である和気姫を祀る和気比売神社が建てられている。(写真) 秋には興居島の伝統芸能である海上での「船踊り」が奉納されている。その起源は、忽那諸島に本拠を置く伊予水軍が凱旋した際、出迎えた島民に戦いの様子を伝えるため行ったものとされ、現在でもその威は島民により大切に伝えられている。

2) ナマコの養殖場

複雑な海底構造により、豊富な栄養塩が発生する潮流海域である興居島では、いくつかの養殖場が立地している。御手洗では太平洋から流れる海流を利用したナマコの養殖が行われている。海岸構造物により囲われ、住宅地と同等の面積を誇る、興居島の中でも特に大きな養殖場となっている。



御手洗集落
(2020.8 撮影)



船越集落
(2020.8 撮影)



船越和気比売神社
(2020.8 撮影)



興居島小中学校と西海岸（鷺ヶ巣）への坂道
(2020.8 撮影)



船越の裏手（鷺ヶ巣側）から釣島
(2020.8 撮影)